

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	ゆひもや
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	静岡県庵原郡由比町由比427-14
記入者名 (管理者)	山内 博美
記入日	平成 19 年 5 月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	2ヶ月に1回、地域運営推進会議を開催し、地域の方にゆひもやの運営方針、活動内容を伝えていく為にも、有意義な会議として積極的に継続していきたいと思って降ります。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	地域密着型となり、地元のお客が増えてきているので、近隣に知り合いの方も多いため、気軽に立ち寄って頂ける様な雰囲気づくりをしていきたいと思っています。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	由比町の老人保険事業、老人会教育に講師として、講義を開きました。由比町ケア会議に参加し、予防介護についての取り組みをしている。	○	今年度も地域に貢献できるよう、老人保険事業などに取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果をホーム会議で話し合い、サービス改善に活かすように努力している。	○	こやまケア独自の監査もあり、その都度確認を行っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地位運営推進会議は、2ヶ月に1回行っているが、会議の内容の報告が職員全員に出来ていない。	○	運営推進会議の内容をホーム会議で報告し、話し合いサービス改善に活かすようにしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	由比町ケア会議、由比町介護保険運営協議会に参加し、連携をとっている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している			
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、報告会を開き全ての職員が正しく理解出来るようにしており、虐待のないケアを実践している。	○	目に見えない力の介護、言葉の虐待など見過ごされることがないように、今後も注意を払っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>随時話し合う機会を設けて、納得していただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>地域運営推進会議で、利用者の意見を地域の方に表す機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>今後も地域運営推進会議に多くのお客様に参加して頂き、普段の生活と違った場に出ることで、良い刺激を感じて頂きたいと思っています。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>個々にお便りを毎月送付し、日常の生活の様子や金銭の報告を行い、家族が来られた時には、こちらから声掛けをし報告をするように心掛けている。状態変化がある場合には、随時連絡している。職員の異動報告や現金出納帳の報告は、家族会の日に行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に説明し、文章でも説明しているが、家族会を開催して話し合う機会を作っている。苦情ポストを設置して、対策案を検討しサービス改善につなげている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営会議の報告をホーム会議で行い、話し合う機会を設けている。</p>	<p>○</p> <p>運営会議には一般職員(リーダー)が参加することになっている。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>家族と随時話し合い、対応している。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員とは、年2回話し合う機会を作っている。採用に際し、適した人材を細心に厳選し、精神的介護重視が出来る「人として」の信頼できる人に勤めていただいている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部、内部研修に参加できるように勤務の調整を行っている。施設内研修を月1回全体会議の時に言い、外部の研修は職員全員が1回は参加することを目標としている。介護福祉士、ケアマネの資格習得の為の講習会に参加できるようにしている。	○ 今年度は、介護福祉士試験にチャレンジする職員が6名おり、施設内での有資格者による勉強会を開催する予定。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ちいきの同業者との交流はないが、同法人のグループホームとの交流があり、お互いサービスの向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	グループホーム職員交流会を取り入れ、外部者と接し親睦を深めお互いの悩みなど意見交換している。現状職員不足により、職員による負担が多く、ストレスとなっている。職員確保の為努力している。	○ 19年度より3日間のリフレッシュ休暇が取れるようになっている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	上期、下期と職員個々の目標を設定し、目標発表会で実績と取り組みについて全職員に発表する場がある。	○ 目標が達成できるよう、主任、リーダーは職員のバックアップをしていきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に本人と面談し、話を聞く機会を作っている。本人から訴えることの出来ないお客様に対しては、信頼関係を築くところから初め、本人の気持ちになり、読み取れるよう努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族と面談し、納得行くまで話し合いを行っている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始時は、グループホームの雰囲気にならぬ慣れで頂ける様ご家族と相談しながら、工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に喜ぶことの大切さを職員は理解し、入居者から学んだり、信頼関係を深めながらも業務の中からの楽しさを見出すことが出来ている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ゆひもやの行事には家族を誘い協力して頂き、家族旅行などを計画して外出や旅行等の機会を作り、楽しいひとときを過ごすことが出来ている。来訪時は、現状報告し家族と共に支える姿勢をとっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	訪問時には、ご家族と落ち着いて話ができる場所(談話コーナーや居間、居室など)を提供し、来訪しやすい環境を作っている。ご家族が見えたときには、声を掛けるように心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのへの手紙や電話は、希望にあわせてプライバシーに配慮しつつ対応している。散歩や買い物、地域のお祭りなどに参加していただくように支援し、ドライブなどで外出した際には、自宅の近くやなじみの場所に案内するよう心掛けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お客様同士の交流を大切にし、職員が関わることでその関係が壊れないように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後もそのご家族との連絡を取り、保健医療や福祉関係者からの情報を得ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面会時や、家族会などでご家族の意見を聞き、普段の生活を通してお客様の要望を聞くようにしている。困難な場合には出来る限りお客様が満足できるようなケアを提案している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシートを活用し、家族の来訪時や本人から話を聞き、これまで営まれてきた生活を把握できるようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のD-4シートを活用し、一日の生活の様子を記録に毎日残すことにより、把握できている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホーム会議や日常の業務を行うなかで定期的に意見を提案し、またそれについて職員が建設的な意見交換を展開していくことによって、個々に合った介護計画を作成している。ご家族や本人との対話から、お客様本位の介護計画の作成を目指している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間で見直しをし、状態変化があった時は、サービス担当者会議を開き検討作成している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式D4シートを生活記録として使用し、様子を具体的に記録しているが、まだ充分とはいえない。		全体勉強会で記録の書き方について学ぶ予定がある。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設しているデイサービスでの交流、合同行事などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員は、地域運営推進会議への参加、ボランティアは、中高大学生を受け入れている。消防署による避難訓練、地元教育機関との交流もあり、地域資源との関わりをもっている。	○	地域教育機関へこちらからも、出向いていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの介護支援専門員が地域運営推進会議に参加し、情報交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の希望にあわせ、医療機関を決めている。協力医を確保し、必要に応じて往診もしてくれている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居時に医師の診断はあるものの、その後の相談や助言を得るのは現状では難しい。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスの看護師が週1回、健康チェックやBSチェックを行い、お客様の心身や健康状態の管理をしている。変化があった場合には、看護師に相談し、助言や意見を得て対応している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、病院関係者や家族との情報交換に努め、またサマリーを作成し入院先に提示することにより、入院前の生活の様子がわかるように心掛けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化し、終末期を向かえられたお客様については、家族を交え今後の方向性について慎重かつ充分な話し合いを行い、対応できたが、全員のお客様についての終末期に対するあり方に関しては、把握しきれていない。	○	家族会などを利用し、家族を話し合いを持ち確認していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	実際にそのようなお客様がいないときにはおろそかになってしまっている。	○	先々を見据えて、今後の対応策について、デイサービスの看護師を交え検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	保健医療、福祉関係者と情報交換を行い、情報の共有化を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の余裕のなさが態度や言葉がけにに表れてしまうことがあり、充分に対応しきれていない時がある。また、個人情報に関しては、慎重に取り扱うようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の状態に合わせた対応を行い、出来る限りのわかりやすい選択肢を提示し、本人の意思に添うような生活が送れるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしく暮らしていけるよう支援するようは心掛けてはいるものの、職員のペースに当てはめてケアしてしまう時があり、反省すべき点である。	○ その人らしい生活の質を上げていくことが課題である。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	整容に関しては、自己決定が出来るお客様にはその人の自己管理に委ねている。また、認知症の為自己決定が困難なお客様には、選択肢を用いて決定しやすい場面作りをしている。理美容は家族、本人の希望に沿って利用している。また、出張美容院も依頼し、ホームで気軽に散髪ができるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態や嗜好に合わせた対応をしている。下ごしらえや盛り付け、後片付けに関しては、日常的にやって頂けているが、調理、調味については殆ど行っていない。	○ 調理への参加を促していく。栄養のバランスについて栄養士に献立を見てもらい、助言をもらう。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好品に関しては、健康状態に支障がない程度に楽しんで頂いている。	○ 健康状態に不安がある時には、嗜好品を嗜んでも大丈夫か定期受診の際かかりつけ医に相談している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンをとらえた上で一人一人に合わせた排泄ケア用品を用い、プライドを傷つけないような言葉がけや誘導を心掛けている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に沿った入浴時間に入って頂けるように配慮しているが、尿・便失禁してしまったお客様には、清潔保持の為に随時入浴してもらっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ゆっくりと安心して睡眠や休息が取れる環境が作れるように、随時の対応をしている。		
おくいん				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事などは、簡単な事は日常の役割として確立されているお客様もいるが、職員がやってしまったり、全員には声掛けができていない。デイのレク、散歩やドライブ、季節の行事に参加して頂き、楽しまれている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内では、職員が金銭管理を行っているが、お金を持つことの大切さは理解できている。希望に応じた買い物や外食などに行かれた場合には、ご本人から支払ってもらうように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の希望に応じ、近隣の散歩や少人数でのドライブなどを楽しまれている。また、個別ケアとして、外食や外出の支援をしている。	○	短時間でも外の空気に触れる機会を作っていく。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一年に一度は、ホームで家族旅行を計画し、実行しているが、個別外出としては、全員は行っておらず、聞き出しも十分ではない。	○	職員が担当のお客様の外出支援を計画し、実行に繋げていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に関しては希望に応じた対応をしている。年賀状と一緒に作成したり、完成したものは一緒に郵便局に投函しに行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族がゆっくりと話ができる環境を提供し、来訪しやすい雰囲気ができている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、報告会を開き全ての職員が正しく理解出来るようにしており、身体拘束のないケアを実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放し職員が見守りをしている。夜間のみ安全の為に、玄関を施錠している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	見張りではなく、さりげない見守りを心掛け、プライバシーに配慮した所在確認を実践している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	随時ホーム会議で話し合い、職員同士で取り扱いを確認し実行している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを常に確認できる場所に掲示し、勉強会も開いている。事故対策委員会を中心に毎月事故の集計をし、ホーム会議では報告事例についての反省と対応策についての話し合いを持ち、再発防止に努めている。事故報告書を作成、回覧し、全職員が情報を共有できるようにしている。	○	事故を未然に防ぐ意味でも、ひやり、はつとした事を状況報告として記録に残す。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法などを消防署に依頼して講習会を開いている。	○	職員全員が講習を受けられるように勤務の調整をする。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	近隣の人たちの協力を得て、一緒に参加して頂き、避難訓練を年二回行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会や面会時に家族に随時説明し、話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	BSチェックを一日2回行い、体調の変化に留意している。変化があった場合には、デイの看護師に相談、家族にも連絡し今後の対応を話し合っている。健康状態を毎日表に記入し、把握できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、効能や副作用について確認が取れるようにしている。服薬について、疑問が出た場合には、家族や医師と相談を持ち、許可を得た上で継続あるいは中止をし服薬状況の管理をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促す為、水分・食事の工夫や運動を取り入れている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声掛けや誘導をし、自分でできるところはやっってもらっている。どうしても手の届かないところを職員が介助している。拒否の強いお客様に関しては、最低一日1回は歯磨きをしてもらえるようタイミングを図り声掛けしている。	○	口腔ケアについての勉強会を開き、全職員が習得できるようにする。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態や、盛り付けの工夫をしている。毎食時の摂取量と水分摂取量をバイタル表に記入し確認している。食の細かいお客様には、栄養価の高い補助飲料(エンシュアなど)を提供しカロリーを補っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルや掲示物を作成してある。デイとの合同で勉強会を開き予防に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者が台所用品の清掃や消毒などの管理を行い、特に食品を直に扱うまな板は、毎日漂白をし、予防には細心の注意を払っている。賞味期限の過ぎたものが出ないように備品係が定期的に確認をとっている。買い物の際にはクーラーバックを持参し、生ものの取り扱いには注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には花や、親しみやすい飾り物などを置き、来訪しやすい雰囲気作りに努めている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光が気にならないように、落ち着いた雰囲気与生活できる空間を目指している。	○	生活感や季節感をもっと取り入れていきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や、居室などで、ゆっくりと話ができるように配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り、なじみの物を自宅から持ってきてもらうよう、家族に協力を得ている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計や湿度計を随時確認し、快適に過ごせるような空調の管理を随時行っている。定期的に換気をし、空気がよどまないように配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置は、お客様の状態に合わせて設置を検討している。身体機能が低下しても、残存能力を生かせるように設備を工夫していく必要がある。	○	現在、廊下・浴室の手すりの設置を検討中。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる・わからないの把握が全て出来たわけではないが、日常生活に関わる中で探っていき、本人のやる気をうまく引き出す声掛けや誘導が必要。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは物干し場やお客様の日なたぼっここの場になっている。建物の裏手にゴミ捨て用の倉庫があり、職員とともにゴミ捨てに行っている。近隣の道を散歩し、季節を感じてもらうように声掛けしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/>	①毎日ある
	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/>	③たまにある
	<input type="radio"/>	④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
	<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
	<input checked="" type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

事業所として一番力を入れているのは、個別ケアです。お一人お一人の生活歴、趣味、好みを知り、その方に合った喜びを介護者が見出し、その笑顔を見られることが私達ゆひもや職員の喜びでもあります。今を生活している認知症のお客様に、ひと時でも笑顔と笑い声が出るよう、その方のための何かを探していくことが、私達の大切な仕事だと思っています。